

## 第15回「戦争と医の倫理」の検証を進める会 世話人会会議報告

- ◇日時 2012年1月15日(日) 10時30分～16時  
◇場所 全国保険医団体連合会 6階会議室  
◇参加者 赤羽根巖、西山勝夫各代表世話人、苜昭三、小俣和一郎、山口研一郎、小島莊明、光石忠敬、吉中丈志各常任世話人、住江憲勇事務局長、市野川容孝、刈田啓史郎、松村高夫、村林彰各世話人。  
(事務局) 師岡聡、木村徳秀、原文夫、室井正、小林耕治各氏。

### ◇議長 赤羽根代表世話人

議事進行について、前回の会議では、パネル案の第1部～第4部を中心に内容の検討を行い、第5部(C班)のパネル案、及び国際シンポとパネル展示の企画案については、各責任者の出席のもとで議事を優先して本日検討することとした。

### ◇報告及び協議事項

#### 1. 第14回各世話人会(11.11.23)報告の確認について

会議報告3P(3)の4行目「なお、…西山代表世話人」の後に「光石常任世話人」を追記することで了承。

#### 2. パネル案 第5部(P101～107)の検討について

##### (1) 山口常任世話人(起案者)からのパネル案作成等の説明

起案者の山口常任世話人からパネル案第5部の各パネルの趣旨について説明。その上で、事前に寄せられた修正等の意見に対し、①戦後の医師会、ドイツの医師会との関係、原発問題との関係などについては、「第4部日本医学会(界)の戦後」で補足してはどうか、②平和憲法や平和教育などとの関係にも触れるとすれば、あとパネル5～6枚必要と思われるが、全体の枚数制限との関係でどうなのか、③その他に沢山の意見をいただいたが、それらを6枚のパネルの中で整理するのは困難で、パネル枚数を増やす必要があるのではないかと。また、内容的には、歴史の検証を受けて、これからの医学・医療に対する医の倫理に触れるには、考え方の相違もあり統一見解をまとめるのは難しいのではないかと、との感想が述べられた。

##### (2) 以上の提案についての主な討論

討論で出された主な意見(要点)は、下記のとおり。

\*検証を妨げてきた点を明らかにすることが、今後どのように生かすかに繋がるのではないかと。妨げた要因は、①米国(GHQ)が情報資料と引き替えに731部隊を免責した、②それを日本政府が弁護し不問にした、③日本医学会自身が目を閉ざした、といえる。特に日本医師会が世界医師会への入会時に出した抽象的な声明で決着済みとして、その後の検証が行われなかったことが、戦後の薬害事件などを生んだ背景にもなっている。

「731部隊精神」との関連で触れている「最大多数の最大幸福」の論理から、少数者の犠牲もやむを得ないとの精神で731部隊の犯罪が起きたとの規定には異論がある。根本は絶対的な天皇制軍国主義の支配のもとで起きたもので、その視点は明確にすべきだと思う。

\*修正案として別冊配布した「4. 日本の医学会(界)の戦後」に、第三の理由として「米国の免責」も入れたいと考える。もう一つの問題は、都留重人著「科学と社会」(岩波ブックレット)で、「科学者の社会的責任」として触れていることの教訓を生かすことではないかと。ここで、「①戦争のための科学、②企業利益のための科学」として、科学への影響が指摘されている。戦争や企業利益のみに従属、左右されない科学者としての研究の自主性と、そ

の社会的責任を保障する仕組みが必要だと思う。新しい時代の倫理性として医学研究や医学者の姿勢にもマッチするものではないか。

- \*表題等の表現を「731 部隊問題」とすることは、戦争医学犯罪の検証と現在の課題が矮小化されかねないと危惧する。たとえば表題としては「今なぜ『戦争と医の倫理』の検証なのか」などがよい。触れる内容としては、①有事法制化に伴う医師・医学者、医療関係者の動員システムが既に作られており、戦争と医療の関係は、過去の問題ではなく現在そして未来にもかかわる課題である（有事法制は配布資料参照）。②「医の倫理」については、1980年代に米国医師会や世界医師会などでも検討が進められ、特に米国医師会では、2001年に同僚医師の不正や誤った治療を知ったときは組織的に是正する保障が明確にされた。しかし、日本医師会の倫理規定は自浄規定などが曖昧である。③2007年の国際シンポジウムで講演したウイクラ教授は、「見たくない事実の直視は、守りたい価値の確認に繋がる。過去に起きた事実を誠実、率直、正確に報告し過去と対峙することで、望む価値観を肯定することになり、それは子孫への責任」と指摘した。第5部では、少なくとも世界医師会が出しているレベルと同等か上回るものの提示が必要だ。
- \*被災地東北では、「東北メディカル・メガバンク構想」が東北大学を中心に動き始めている。これは①ヒトの遺伝子情報を集積する研究センター、②医療情報の電子化とネットワーク化をめざすもので、総事業費1000～1500億円ともいわれている。これによるメリットは医療・研究関連企業やIT企業などであり、被災者の支援にはつながらない。被災地支援に名を借りて医師・医学者を集め、多額の予算で強制的なゲノム研究などでは、被災者の人権無視、侵害にもなりかねない。「医の倫理」も問われていることを直視する必要がある。
- \*「科学と社会」で指摘されている「科学者の社会的責任」が問われる話だと思う。医師や医学者が戦争や産業との関わりでの社会的な倫理性、責任性が求められている。これまでの議論でも指摘された倫理、道徳、法との関連を含めて深めるべき課題だ。
- \*なぜ今「医の倫理」なのかの重要な議論であり、戦争との関わりでも有事法制による大規模な動員システムへの対応との関わり、東北被災地でのゲノム調査、福島放射線量調査などを含めて、「医の倫理」は今日につながる問題であることを発信する必要がある。
- \*P. 101の4行目「…戦争犯罪が不問にされ…」はなぜ不問になったのかがわからないので補足してはどうか。P. 104の4行目「…少数者の犠牲もやむを得ない…」ではベンサムの考えにも触れた方がよい。同じPの11行目「…臓器移植…」と最後の3行は関連がつかないのではないかと。P. 105～106で触れている市場原理や営利化問題が、731部隊とどのように関連するのかがわかりにくい。
- \*戦後の医の倫理のあり方との関係では、医療の産業化への対応と、戦前の大政翼賛会的に動員された中で起きたことを同一に触れるとかみ合わない。区別して触れる必要があるのではないかと。
- \*C班で検討してきた元々の考え方は、これからの医療をどう考えるかを中心にしてきた。このため、731部隊と天皇制との関わりをどうするかというより、多数の利益のために少数を犠牲にする考え方の誤りを中心としている。天皇制問題などは、戦後の医療としてまとめたい。
- \*そもそも会の名称に間違いがあると思う。戦争医学犯罪の検証の会であり、「医の倫理」は付け加えただけの会ではないかと。「医の倫理」については、考え方の統一がとれていないように思う。名称から考え直すべきではないかと。ドイツでは謝罪した。謝罪とは「間違ったことをしました」と表明することだが、この会は謝罪もしていない。私の知る限りでは、日本の医師団体はどこも謝罪していない。会として謝罪し展示でも示すべきではないかと。

- \*C 班でまとめたパネル案をもとに、これまで出された意見で指摘された 731 部隊での教訓を切り口としてパネルに反映させ、現在と将来にかかわる「医の倫理」の問題として作成していけばよいのではないか。
- \*いつの間にか将来に向けて戦争に動員され加担してしまう危険性や、東北のメディカル・メガバンク構想などでも、いつの間にか被災者の視点から離れてゲノム提供に動員されてしまう危険性を指摘し問題にすべきと思う。そこに「医の倫理」確立の重要性がある。
- \*戦争医学犯罪は、医師・医学者の姿勢も問われるが、その大本にあるのは戦争そのものであることを見逃してはいけない。指摘されたように「有事法制」とどう関わるかも含めて、現在の医学界が抱えている問題に対して、「当会はこう考える」ということをパネルで示す必要がある。必要なら謝罪の問題もその中で書くべきであろう。
- \*C 班のパネルに基づきながら、これからの日本医学界の展望として、医師・医学者一人ひとりにもどうすべきかを知らせる必要がある。戦争の中で起きた事実、教訓をもとに、現在や将来でも注意しないと起きますよ、ということを経験すべきではないか。
- \*いま有事法制という新しい事態が起きている中で、今後も医師・医学者が巻き込まれる危険性を指摘することは大切だ。戦争時における人体実験の事実を明らかにしただけでは、「私たちはやりません」「起こるはずがない」というだけになってしまいかねない。日本の医学界は戦後、このような事実が隠蔽され、自らも自己批判してこなかった。だからこそ、同じようなことが起こる危険性があることを組織として指摘すべきだ。この中に個人の倫理の問題を入れると混乱する。また、戦時と戦後を同列に論じても説得力を持たない。ファシズムの再現ということも現状にそぐわないので、その点を考慮しながら、日本が戦争に巻き込まれる危険性を指摘し、医の倫理綱領の再検討にも触れてはどうか。
- \*第 4 部までの歴史検証を通じていえる到達点は何かをさらに整理して、これからの医の倫理に提案できるように検討したい。
- \*論点を確認する意味でいえば、この会自身が謝罪していないということだが、私たちは日本の医学会（界）としての検証を進める活動を通じて、誤りを繰り返さないために医の倫理のあり方を追求しているのであり、謝罪をどうするのかという問題も含まれると思う。医学犯罪に関わった直接の当事者と、関与した医学会などの組織や戦争を遂行した国家などがあるが、何をどのように謝罪するのか。
- \*市民有志の呼びかけでハルビンに謝罪の碑が建てられたが、市民の反省という形態での謝罪には基本的に反対だ。戦争は当時の政府が国民を動員して行い、その中で医学会としても組織的に推進する役割を果たした。重要なことは政府や医学会としての謝罪こそ必要であり、謝罪の主体を明確にすべきだと思う。
- \*日本の医師団体はどこも謝罪していないとの指摘があったが、1995 年に大阪府保険医協会は戦後 50 年に当たり、731 部隊に触れ謝罪を含む声明を発表した。これが起点になりその後の「15 年戦争と医学犯罪」の検証が始まった。一地方の医師団体かも知れないが、そのような事実にも触れてはどうか。
- \*大阪府保険医協会のことは始めて知った。このようなことは社会にはまったく知られていないと思う。当会としての謝罪も考えるべきだろう。

### (3) 今後の第 5 部パネル案の整理方法

①起案者である山口常任世話人、②歴史検証のまとめとのかかわりで吉中常任世話人、③有事法制や医師会の倫理規定等との関係で西山代表世話人、④事務局長として整理する立場で住江事務局長の 4 人と事務局で、次回世話人会までに検討会議を開催し、内容の整理を行うこととした。

### 3. 今後のパネル展示や国際シンポなどの企画について

事務局から、前回の世話人会までの準備の到達状況として、国際シンポジウム、パネル展示の開催準備概要を報告。その後、立命館大学平和ミュージアムと明治大学でも学内の予定など検討中であることを報告した。

#### (1) 討論で出された主な意見 (要点)

- \* パネル展示について立命館大学の学園祭でも展示できるとよいので検討してほしい。
- \* 国際シンポジウムの準備だが、前回と同じでやるのか。何のためにやるのか、中身を深めるため再検討したほうがよいのではないか。ドイツの精神神経学会の会長を招くとした場合、ドイツは学会として謝罪した。しかし、日本では公には謝罪していないというのでは意味がない。日本医師会がしたといわれているものは抽象的で、誰に対しどのようにしたのかが不明だ。当会の設立趣意書も修正するなどして、日本とドイツの双方がディスカッションできるよう検討すべきだ。ドイツの社会学に詳しい方の意見も聞きたい。
- \* 731 部隊の検証から今後の医療につなげて行くには、戦時中と現在の医療とがどのように考えられているのか、ドイツから聞くだけでなく、日本でも声明を出すなどして対話で深められるようにすることは重要だと思う。自国のことだけを話すだけでは弱いので、責任あるところから謝罪すべきではないか。  
ドイツでは安楽死の問題で 1979 年 9 月に社会精神医学会が声明を出した。それは下からの発言をくみ取る形で連邦医師会が検証してきた経緯がある。このような流れが続いてきたことが、2010 年の DGPPN シュナイダー会長の謝罪にもつながっている。最初は小さな会の動きでも、謝罪を通じて対話につなげることも一つの方法ではないか。
- \* ドイツでは、1979 年 9 月に断種などされた当事者などの被害者団体が作られ、市民団体の力が社会精神医学会を動かし、学会も 79 年の声明と同時に被害者に連絡を呼びかけるなどサポートし、それが戦後補償にもつながった。日本では何をしているのか、どう応えるのか、活動の取り組みを伝える必要がある。
- \* そもそも戦争医学犯罪について「ドイツは謝罪し、日本は謝罪していない」といわれるが、そんな単純なものではない。バスチアン氏のシンポ報告原稿を読むと、個人の加害責任が明確に指摘されている。しかし、日本では石井四郎をはじめ加害の中心人物が、どんな思想を持ってあのような行為をやったのか、その点が不明だ。なぜあのような行為を行ったかの分析が必要であり、天皇制に責任の要因を求めるのはいかがなものか。個人がどのような役割を果たしたのか、そのイデオロギーこそ検証すべきだ。
- \* 戦時下で個人がどう動いたのか、その個人責任をないがしろにする気はない。各個人の責任追及も必要だろう。しかし、会として検証の教訓を展示する場合、個人責任で結論づけてしまうのは問題だ。たとえば日本医学会がどうだったのか、その点を明確に検証しないと、今後どういう問題が起きるかを教訓化できない。日本の医学会(界)として今後どうすべきか、その態度を明らかにすることはとても重要だと思う。
- \* 今議論していることは、この会を発足させるに当たって、「検証」の範囲や対象など何度も議論した。そして、15 年戦争時の 731 部隊を軸に日本の医療界としての検証を中心に進めることを確認し、設立趣意書もまとめた。個人の責任もちろんあるが、それができなければ何もできないということにはならないと思う。シンポジウムでは、日本の現状と私たちの検証の到達点などをドイツの代表と語り合えばよいのではないか。個人責任の追及が不十分だから止めよう、ということにはならないと考える。
- \* 止めるのではなく変更すべきではないか、ということだ。その理由は、当会の謝罪の立場

や日本の現状からいえば、ドイツは加害者研究が進んでいるが、日本は個人責任を問わない、ということで討論がかみ合わないと思う。

- \*当初の企画が大震災で中止になったが、当初と現在で、大きな情勢等の変化が起きたとは思えない。それまでは中心になって国際シンポを企画してきた方が、そのようにいわれることには理解できない。
- \*大震災で中止になったことを機会に、せっかくドイツから呼ぶのであれば、よりよい内容にし、対話を実現したいという思いから述べている。
- \*これまで会の設立目的にそって、みんなで協議しながら企画してきた。その準備の到達点を生かして企画内容を実現させ、その成果を社会に還元していくことが大切だ。ドイツの研究者を招いて行うのもその発展過程であり、欠点があればさらに補う努力をすればよいのではないか。予定したスケジュールで進めてほしい。
- \*ドイツの代表を招いてシンポを行うことには、大きな意味があると思う。ドイツの学会が謝罪声明を出した経緯から日本も学び、今後の活動に生かすことができる。過去の問題ではなく、国際的にも色あせたものではない。
- \*2015年に京都で日本医学会総会が開催される。今度の井村会頭は、過去に京都で医学会総会を開催したときの事務局長も勤め、731部隊との関連で中川米造先生の企画や市民企画にも好意的に対応していただいた。2012年に京都で国際シンポやパネル展示をすることは、2015年の日本医学会総会との関連でも大きな意義がある。マスコミも動員して成功させ、医療界でも注目されるようにすべきだ。
- \*ドイツの医学会が戦後、ニュールンベルグ裁判を経て、その後しばらく沈黙が続き、その後なぜ声明を出すに至ったのか。安楽死などの犯罪と向き合うにはいろいろな葛藤があったと思う。安楽死などに直接関与した医師が亡くなるなども影響しているのではないか。
- \*謝罪との関係では葛藤があったと思う。そもそも医師は誤らないという医師の無謬性や、権威を背景に医療を進める傾向が強い。
- \*ドイツでなぜ謝罪したのか、民族的な問題を含めていろいろあると思う。ドイツの医学会が今なぜ謝罪したのかを明らかにすることは、日本でなぜ遅れたのかを含めて、日本の医学会（界）への問題提起になると思う。
- \*キリスト教会でも、ドイツのキリスト教会がナチスドイツ・ヒットラーに協力してきたことについて、戦後の早い時期に告白し反省してきた歴史がある。当初は東大で国際シンポを開催する企画だったので、日野原先生との関係もあり座長を引き受けたが、京都の医学会に向けては、担当を再検討してほしい。

## (2) 今後の対応について

前述の討論をふまえて、企画の実施については次回世話人会で決めることとした。

## 4. パネル案 第1部～第4部 (P1～100) の検討について

### (1) パネル案の修正意見などについて

第1部～第4部のパネルでは、責任者の吉中常任世話人より、7枚にわたって修正の資料が出され了承。関連して、原事務局員より、「原爆被爆調査データの隠蔽取引」の報告があり、関連しての質疑が行われた。その上で、パネルの最終段階に向かって、パネル全体を通して用語の統一やルビなどを実務的に整理することとした。

### (2) 次回世話人会に向けての作業

①各パネルを補足する関連資料、②開催趣意書やアンケート調査など、パネル以外の項目の資料も提出して議論することとした。

## 5. 開催に向けた今後の課題について

### (1) 第29回日本医学会総会会頭宛の要請について

西山代表世話人より案文が提案され、①冒頭の書き出しは、2007年大阪で開催時の申し入れと限定された展示の経過を先に記述する、②ドイツ精神神経学会の謝罪関係の記述を読みやすく整理する、③1989年京都で開催の医学会総会で中川米造先生の731部隊関係や市民企画に好意的に対応した経過も補足して対応することを確認した。

### (2) 開催に向けた今後の主な作業日程案について

事務局より、国際シンポとパネル展示に向けた主な作業日程について提案があり、その予定にそって進めることとした。

## 6. その他

### (1) 「731部隊」の蛮行の跡を巡る旅の募集について

西山代表世話人より、戦医研主催で、8月29日～9月2日の日程、定員20人で募集中であること。とくに学生・大学院生には基金から補助する旨の紹介があった。

### (2) 731博物館から戦医研への室貸与に伴う経費見積もりについて

先方から予算見積もりが示されたが、支出が困難なので見送る方向であることが紹介された。

以上